

私の世界陸上ボランティアデビュー

山崎 由紀子(三井住友銀行OG)

今年45歳にして初めてボランティアデビューを果たした。その舞台となったのは16年振りにアジアで開催された「世界陸上大阪」である。

今考えてみると初舞台としてはいささか大舞台すぎたように思うが楽天家の私は事務局の方に薦められるままハイハイと応募用紙を投函していた。それから半年後の8月25日開催初日を迎え、ボランティアの赤と白のユニフォームに身を包み不安を胸に抱えて活動場所である「長居競技場」へ、初日の幕が上がった。たった4日の活動ではあったが、それは今までにない貴重な体験と感動を与えてくれ、すばらしい思い出となった。

さて、私の担当はIT業務で主に各国の新聞記者やカメラマンが仕事をこなすエリアでのITサポートというものであったが、情けないことに外国語の出来ない私はパソコン等の稼働チェックが主な業務となった。エリア内に一歩足を踏み入るとそこは色々な言葉が飛びかう外国のようで、パソコンの画面を見ても外国語、質問も外国語、チンプンカンプンで最初に抱えていた不安が徐々に大きくなっていった。様々な問題のあった世界陸上の中でここも例外ではなく大混乱の幕開けで、初日は7時間の活動中殆んど座ることもできず、バタバタと走り回っているうちに終わっていた。しかし、この大混乱が結果的に性別も年齢も全く違うボランティア達を一つに纏めるきっかけとなったと今にして思います。

世界陸上はボランティアなくして成立しなかったと思うし、その大切なボランティアの一員として世界中に選手達の活躍を伝えるという大事な業務に携われたことに感謝している。ボランティアは軽い気持ちでは出来ないし、またしてはいけないと思う。世界陸上は私にボランティアの重要性を改めて知らしめてくれた大会であった。

